

教育委員会の主な事務
の点検・評価報告書
【令和6年度事業】



令和7年8月
鉢田市教育委員会

一 目 次 一

第1章 教育委員会評価制度の概要	1
1 点検・評価の趣旨		
2 点検・評価の対象・期間		
3 点検・評価の方法		
4 点検・評価委員		
第2章 教育委員会の活動状況	3
1 教育長及び教育委員		
2 教育委員会の開催状況	①教育委員会会議 ②視察・研修等 ③入学式・卒業式	
第3章 点検・評価シート	7
1 教育総務課 新しい学校づくり推進室	1 教育・子育て支援給付金事業 2 旭中学校区統合小学校整備事業	
2 指導課	3 英語指導事業 4 のびのび児童生徒推進事業 5 特別支援教育支援事業	
3 生涯学習課	6 家庭教育支援事業 7 二十歳の集い事業 8 花いっぱい運動事業 9 放課後子供教室推進事業 10 生涯学習館管理運営事業 11 文化財保護・啓発事業 12 部活動地域移行実証事業 13 スポーツクライミング推進事業 14 スポーツ推進事業 15 体育施設管理事業	
4 公民館	16 公民館維持管理事業 17 公民館運営事業 18 芸術文化創造事業	

5	図書館	1 9	図書館維持管理事業
		2 0	図書館運営事業
		2 1	図書館資料収集事業
		2 2	ブックスタート事業
		2 3	学校配本事業
6	鉢田学校給食センター	2 4	鉢田学校給食センター運営管理事業 (地方創生臨時交付金事業)
第4章 評価委員の意見			32

第1章 教育委員会評価制度の概要

1 点検・評価の趣旨

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和31年法律第162号）第26条が平成19年6月に一部改正されたことに伴い、教育委員会は毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果について議会に報告するとともに、公表することが規定されました。

そのため、鉢田市教育委員会は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和6年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行について、教育に関する学識経験者の意見を活用して、点検及び評価を行い議会に報告を行うとともに、公表を行うものです。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）
(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条

- 1 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条の第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
- 2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の対象・期間

（1）対象

令和6年度の鉢田市教育委員会の事務事業を対象とする。

- ・ 教育委員会活動状況
- ・ 教育委員会主要施策

（2）対象期間

令和6年度 令和6年4月から令和7年3月まで

3 点検・評価の方法

（1）自己評価

各主管課及び教育委員会による主要事業の自己評価を実施する。

（2）評価委員の意見聴取

教育委員会の自己評価に対し、外部の学識経験者による評価委員からの意見・助言を聴取する。

4 点検・評価委員

本市の教育行政（学校教育・社会教育全般）について、以下の教育に対し高い知見を有する学識経験者である委員の方から、専門的かつ広い視野からのご意見、ご助言をいただきました。

氏 名	所属団体及び役職名
豊 田 昌 幸	学校関係者
白 田 絹 子	学校関係者
今 泉 賢 一	元市P T A連絡協議会会长

第2章 教育委員会の活動状況

1 教育長及び教育委員

本市教育委員会は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者の中から、市長が市議会の同意を得て任命した教育長1名及び4名の教育委員により構成されている。

鉢田市教育委員会教育長、教育委員（令和7年3月末時点）

職名	氏名	任期
教育長	安原 優	令和6年7月1日から令和9年6月30日まで
教育長職務代理者	嶋田 知恵子	令和5年10月1日から令和7年12月26日まで
委員	大原 優子	令和4年1月22日から令和8年1月21日まで
委員	三保谷 智浩	令和5年12月27日から令和9年12月26日まで
委員	坪井 道彦	令和6年12月27日から令和10年12月26日まで

2 教育委員会の開催状況

令和6年度における本市教育委員会の定例会及び臨時会の主な活動状況は、以下の表のとおりである。

① 教育委員会会議

教育委員会	開催日	議案等	報告等	件名
定例会	4月	R6. 4. 25	5件	議1：鉢田市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱 議2：鉢田市社会教育委員の解嘱及び委嘱 議3：鉢北ひまわり学園委員の任命 議4：鉢田市公民館運営審議会委員の委嘱 議5：鉢田市図書館協議会委員の任命 報1：指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	5月	R6. 5. 27	2件	議1：令和6年度鉢田市一般会計補正予算（案） 議2：職員の分限休職処分等 報1：指定校変更及び区域外就学の承諾

教育委員会		開催日	議案等	報告等	件名
定例会	6月	R6. 6. 25	1件	1件	議1：要保護・準要保護児童生徒の認定 報1：指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	7月	R6. 7. 24	3件	1件	議1：令和7年度使用小学校及び中学校教科用図書の採択 議2：鉢田市立学校給食センター運営委員会の委員の委嘱 議3：要保護・準要保護児童生徒の認定 報1：指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	8月	R6. 8. 23	3件	1件	議1：令和6年度鉢田市一般会計補正予算（案） 議2：鉢田市立図書館管理運営規則の制定 議3：要保護・準要保護児童生徒の認定 報1：指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	9月	R6. 9. 25	2件	0件	議1：職員の分限休職処分等 議2：要保護・準要保護児童生徒の認定
定例会	10月	R6. 10. 25	1件	1件	議1：要保護・準要保護児童生徒の認定 報1：指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	11月	R6. 11. 25	1件	1件	議1：令和6年度鉢田市一般会計補正予算（案） 報1：指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	12月	R6. 12. 25	2件	1件	議1：職員の分限休職処分等 議2：要保護・準要保護児童生徒の認定 報1：指定校変更及び区域外就学の承諾
定例会	1月	R7. 1. 24	5件	1件	議1：令和6年度鉢田市一般会計補正予算（案） 議2：鉢田市招致外国青年就業規則の一部改正 議3：鉢田市教育委員会臨時職員の任用等に関する規程の一部改正 議4：職員の分限休職処分等 議5：要保護・準要保護児童生徒の認定 報1：指定校変更及び区域外就学の承諾

定例会	2月	R7.2.21	8件	1件	議1：鉢田市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正 議2：鉢田市児童生徒の就学校に関する規則の一部改正 議3：鉢田市立幼稚園管理規則の一部改正 議4：鉢田市立学校児童又は生徒の問題行動に対する出席停止の命令の手続に関する要綱の一部改正 議5：令和7年度鉢田市一般会計予算（案） 議6：令和6年度鉢田市一般会計補正予算（案） 議7：要保護・準要保護児童生徒の認定 議8：要保護・準要保護児童生徒（入学準備金）の認定 報1：指定校変更及び区域外就学の承諾
臨時会	3月	R7.3.13	1件	-	議1：学校長等の異動内示
定例会	3月	R7.3.26	5件	1件	議1：鉢田市教育委員会事務局組織規則の一部改正 議2：鉢田市立公民館規則の一部改正 議3：鉢田市立図書館管理運営規則の一部改正 議4：鉢田市立鉢田南小学校・鉢田南中学校学校運営協議会設置要綱の制定 議5：教育委員会事務局職員及び教育機関職員の人事異動 報1：指定校変更及び区域外就学の承諾

教育委員会 開催件数	議案等 件数	報告等 件数	備 考
開催回数 定例会 12回 臨時会 1回	39件	11件	*議-議案、報-報告 *件名は省略して表示しております。

② 観察・研修等

学校等観察 令和6年11月19日（火）出席委員2名
大洋中学校、鉢田南中学校、鉢田南小学校、とくしゅくの杜

令和6年11月21日（木）出席委員4名
鉢田北幼稚園、鉢田北中学校、旭南小学校、旭公民館、
旭スポーツセンター

令和6年11月25日（月）出席委員3名
旭西小学校、旭北小学校、つばさ幼稚園

会議・研修会

令和7年2月7日（金）出席委員3名
市町村教育委員会教育長・教育委員研究協議会
東京都TKP新橋カンファレンスセンター

③ 入学式・卒業式

入学（園）式 令和6年4月8日（月）出席委員4名
旭東小学校、旭南小学校、旭北小学校、鉢田南小学校

令和6年4月9日（火）出席委員4名
旭中学校、鉢田北中学校、鉢田南中学校、大洋中学校

令和6年4月10日（水）出席委員4名
旭幼稚園、鉢田北幼稚園、鉢田幼稚園、つばさ幼稚園

卒業（園）式 令和7年3月11日（火）出席委員4名
旭中学校、鉢田北中学校、鉢田南中学校、大洋中学校

令和7年3月19日（水）出席委員4名
旭幼稚園、鉢田北幼稚園、鉢田幼稚園、つばさ幼稚園

令和7年3月21日（金）出席委員4名
旭東小学校、旭南小学校、鉢田北小学校、大洋小学校

第3章 点検・評価シート

- | | |
|------------------------|--|
| 1 教育総務課
新しい学校づくり推進室 | 1 教育・子育て支援給付金事業
2 旭中学校区統合小学校整備事業 |
| 2 指導課 | 3 英語指導事業
4 のびのび児童生徒推進事業
5 特別支援教育支援事業 |
| 3 生涯学習課 | 6 家庭教育支援事業
7 二十歳の集い事業
8 花いっぱい運動事業
9 放課後子供教室推進事業
10 生涯学習館管理運営事業
11 文化財保護・啓発事業
12 部活動地域移行実証事業
13 スポーツクライミング推進事業
14 スポーツ推進事業
15 体育施設管理事業 |
| 4 公民館 | 16 公民館維持管理事業
17 公民館運営事業
18 芸術文化創造事業 |
| 5 図書館 | 19 図書館維持管理事業
20 図書館運営事業
21 図書館資料収集事業
22 ブックスタート事業
23 学校配本事業 |
| 6 銚田学校給食センター | 24 銚田学校給食センター運営管理事業
(地方創生臨時交付金事業) |

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	子どもたちの教育環境の向上				所属課	教育総務課
事 業 名	教育・子育て支援給付金事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	131,101	千円
	項	1	教育総務費	予 算 現 額	131,101	千円
	目	2	事務局費	執 行 額	123,044	千円
	事業	22	教育・子育て支援給付金事業	予算執行率	93.9	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目 的：学校給食費を支援することにより、家庭の経済的負担を軽減し、より子育てしやすい環境の向上を図り、子育て世帯から”選ばれるまちづくり”を推進する。

取組み：市内に住所を有し、小中学校等に通う児童生徒の保護者が負担している給食費に対して、「小中学校等給食費支援給付金」を給付することで、負担額を1,500円としていたが、令和5年9月から支援額を拡充し、保護者が負担している給食費を実質無償化とした。令和4年10月からの継続事業として実施している。

目的の達成状況

本事業の効果を図るため、本事業を利用している市内学校に在学する児童生徒の保護者へアンケートを実施した。その中で、給食費支援が子育てしやすい環境の向上として有効かという設問については、96.51%の保護者から有効を感じるとの回答をいただいた。

この数値は令和5年度(95.87%)と比較しても高い数値を保っており、有効性を感じることができる。

また、今後の給食費の支援制度についてよいと思われるものという設問については、今後も続けてほしいとする回答が、94.57%であり、こちらも前年度(93.17%)の数値と比較しても継続の希望が多いことから事業自体の妥当性が伺える。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	実施したアンケートにおいて、保護者が子育てに関する費用のうち大きく負担感を感じているものについて回答を求めたところ、依然として食費(給食費を含む)との回答が最も多かったことから、給食費に関する支援は妥当性が高いと判断される。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	アンケートにおいて、本事業の効果を図る設問として、負担を実質無償とする給食費支援は、子育てしやすい環境の向上として有効かという設問については、96.51%、今後の支援制度継続を望む設問については94.57%の回答をいただき有効を感じている。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	学校給食法において、施設設備及び運営に関する経費以外の経費(賄材料費)は保護者の負担とするとされていることから、給食費を免除するのではなく、受益者の申請に基づく支援金としているため、保護者からの申請が必要となるため事務処理における効率性に検討の余地があると考える。
総合評価	子育て世帯において、負担が大きいと認識をしている給食費に対して支援を実施し、支援として有効であるとのご意見を多くいただけたことで、子育て世帯のニーズに合致した施策として、事業設計及び運用ができたと考える。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	教育環境の向上				所属課 教育総務課 (新しい学校 づくり推進室)
事 業 名	旭中学校区統合小学校整備事業				
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算	2,093,828 千円	
	項 2	小学校費	予 算 現 額	2,028,536 千円	
	目 3	学校建設費	執 行 額	2,028,108 千円	
	事業 6	旭中学校区統合小学校整備事業	予算執行率	99.97 %	
			事業進捗率	100.0 %	
事業の目的及び今年度の取組み					
<p>目的 : 錦田市公立学校施設再編計画に基づき、旭中学校区の小学校4校の統合を令和8年4月の開校に向けて推進する。</p> <p>取り組み : ○錦田市立旭小学校校舎等新築工事の実施 ○錦田市立旭小学校校舎等新築工事監理業務の実施 ○旭中学校区小学校統合推進委員会の開催及び専門部会の開催 ・推進委員会(2回) ・校長部会(9回)、教頭部会(5回)、教務主任部会(6回)、事務職員部会(3回)、 PTA部会(4回)、教頭・事務職員合同部会(1回)</p>					
目的の達成状況					
<p>令和8年4月の旭小学校開校に向け事業を進めることができた。</p> <p>ハード面では、校舎等新築工事の施工業者が決定し、令和8年2月末までの工期で着工した。併せて、工事の監理業者も決定し、工事完成に向け順調に進捗した。</p> <p>○施工業者 : 株木・酒井・吉川特定建設工事共同企業体</p> <p>○工事監理 : (株) 桜設計事務所</p> <p>ソフト面では、旭中学校区小学校統合推進委員会を2回開催し、各専門部会が協議し決定した項目について、推進委員会の承認を得ることができた。</p> <p>また、工事や統合推進委員会の進捗状況について、「旭中学校区小学校統合推進委員会だより」を作成しホームページへ掲載し広報誌で広く周知したほか、地区回覧や保護者への周知も行った。</p> <p>○推進委員会協議決定項目 ・校訓・教育目標、校歌、校章、スクールバス乗降場所及びルート、体操服及びシューズ</p>					
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低		理 由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		令和8年4月の開校に向け、建築工事の完成や統合に向けての協議項目決定は必要不可欠である。工事、推進委員会とも計画どおりに進捗しており、妥当性は高い。		
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		令和8年4月の開校に向け、建築工事の着工や、協議・決定すべき項目の決定など、着実に進捗が図られており、有効性は高い。		
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		推進委員会及び専門部会では、協議・決定すべき項目について方針案の検討、評価、案の決定、承認のサイクルが必要であり、関係者の意見を調整し、効率よく進めることができた。		
総合評価	令和8年4月の開校に向け、令和6年度に実施すべき業務を順調に完了することができた。 施設整備においては、建築工事について施工業者が決定し着工することができた。また、旭中学校区小学校統合推進委員会では、令和6年度に決定すべき項目について計画どおり決定することができた。 引き続き、既に統合した3校の改善点を活かし、ハード・ソフト両面で多岐にわたり検討・協議を進める必要があり、関係機関・関係者との連携を一層深め事業を推進していく必要がある。				

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	指導体制の充実				所属課	指導課
事 業 名	英語指導事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	39,047	千円
	項	1	教育総務費	予 算 現 額	39,047	千円
	目	3	教育指導費	執 行 額	39,044	千円
	事業	1	英語指導事業	予算執行率	99.9	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目的 : リスニング及びスピーチング力の向上させることはもちろん、生きた英語に触れ「話して伝わる楽しさ」を経験することで、英語学習への意欲を高める。また、文化の違いのおもしろさに気づき、世界に関心をもつグローバルな視点及び多様性を理解し尊重できる態度を育む。

取組み : 外国語指導助手(ALT)の配置(8名)

- ・日本人教師とともに外国語(英語)の授業を実施(中学校1~3年生、小学校3~6年生)
- ・ALTが小学校1・2年生や幼稚園児とも交流することで、児童や園児が英語文化、異文化に触れる機会を設けた。

目的の達成状況

ALTを活用することで、児童生徒が積極的に英語を聞いたり話したりできる授業展開が可能となり、英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)を高め、コミュニケーション能力の育成に努めることができた。また、小学校低学年や幼稚園児との交流の際には、年齢に沿った教材やゲームなどを取り入れ、子どもたちがわくわくしながら英語に親しむ機会をつくることができた。

○アンケート調査(調査対象:小学校:6年生、中学校:3年生)

	中学校				小学校			
	R4 市	R5 市	R6 市	R6 全国	R4 市	R5 市	R6 市	R6 全国
英語の勉強は楽しい	65.1%	74.6%	68.7%	69.5%	86.8%	84.6%	77.6%	76.7%
これからも英語を学び続けたい	75.4%	74.6%	68.0%	75.2%	86.2%	83.5%	77.2%	79.4%
外国人の人たちと英語で話してみたい	76.4%	72.7%	72.8%	73.3%	75.7%	73.0%	72.6%	69.4%

○リスニング調査(調査対象:小学校:6年生、中学校:3年生)

	中学校				小学校			
	R4 市	R5 市	R6 市	R6 全国	R4 市	R5 市	R6 市	R6 全国
平均正答率(応答問題等)	44.7%	50.2%	54.2%	54.0%	63.4%	67.5%	68.4%	64.2%

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	異文化と共生する社会の形成のため、外国語教育(英語)の重要性は高く、グローバル社会に対応できる児童生徒の育成において、ネイティブのALTと直接的な英語によるコミュニケーションの機会を設けることは重要である。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	ALTの発音を直接聞くことができる生きた英語の授業は、児童生徒の英語に対する興味関心を高め、コミュニケーション能力の向上に効果的である。外国人であるALTとの交流により、国際理解教育の充実を図ることができる。
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	各小中学校へ8名のALTの派遣を行い、ALTと効果的な英語の授業が実施できた。また、小学3~6年生の授業がない時間を活用し、小学校1・2年生や幼稚園児とも交流し、児童や園児が英語文化、異文化に触れる機会を設けることができた。
総 合 評 価	ALTを活用することで、児童生徒が積極的に英語を聞いたり話したりできる授業展開が可能となり、英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)を高め、コミュニケーション能力の育成に努めることができた。自己以外の人物との交流は、異文化への理解を深める機会となり、グローバル社会に活躍する人材の育成につながる必要な事業である。 英語に対するアンケート調査では、「英語で会話したい」という意欲が高い一方、学習に充実感を感じられない児童生徒も多いことが読み取れる。教師とALTが連携しながら、引き続き、ALTを活用したオールイングリッシュの授業を展開し、英語の勉強が楽しいと実感できるよう授業の改善を行っていくことが必要である。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	児童生徒の健全育成				所属課	指導課
事 業 名	のびのび児童生徒推進事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	58,858	千円
	項	1	教育総務費	予 算 現 額	58,953	千円
	目	3	教育指導費	執 行 額	56,127	千円
	事業	4	のびのび児童生徒推進事業	予算執行率	95.2	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

- 目的 : 児童生徒の心のケア、保護者や教職員に対する支援、個に応じた学習支援を進め、一人一人の状況に応じた、きめ細やかな教育の提供を目指す。
- 取組み :
 - 学力向上支援非常勤講師を配置し、チームティーチングによるきめ細やかな学習支援を実施した。
 - 適応指導教室「すずらんルーム」の設置、スクールカウンセラー（SC）及びスクールソーシャルワーカー（SSW）の学校派遣を実施し、児童生徒の心のケア、学校生活や家庭生活における児童生徒の教育上の諸問題に関する相談業務を行った。
 - 小学校5・6年生、中学校1・2年生を対象として「ハイパーQUテスト」を実施し、児童生徒が抱える心の問題をいち早くキャッチし、早期対策に繋げた。

目的の達成状況

- 適応指導教室「すずらんルーム」の設置（生涯学習館内 月曜～金曜）
- SC（県費・市費）の派遣 6名 全小中学校 / SSW（県費・市費）の派遣 1名 小学校1校・中学校1校
- ハイパーQUテストの実施（対象：小学校5・6年生、中学校1・2年生/1学期末、2学期末の2回実施）
- 学力向上支援非常勤講師の配置 計12名 全小学校

	すずらんルーム実績				スクールカウンセラーの実績		スクールソーシャルワーカーの実績	
	延べ来所者数	電話相談	訪問相談	巡回相談	派遣回数	派遣時間	派遣回数	派遣時間
R3年度	1,422人	304件	9件	41件	214回	1,252時間	47回	140時間
R4年度	1,023人	317件	7件	51件	208回	1,207時間	56回	168時間
R5年度	1,075人	219件	0件	23件	205回	1,201時間	20回	60時間
R6年度	1,338人	251件	6件	11件	207回	1,157時間	17回	51時間

○SC相談状況（県費SC・R6.12末調査時）

SC相談対応件数：370件、改善した件数336件（改善した割合：91%）

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	「すずらんルーム」は学校に通うことが難しい児童生徒にとって安心できる居場所となり、心の回復を目指し一人一人に寄り添った支援を行うことができる。また、学力向上支援非常勤講師の配置は、誰一人取り残さない授業を進めていくうえで必要な事業である。
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	多様化する児童生徒・保護者の相談について、専門的な立場からカウンセリングできるSC及びSSWの配置は効果的である。また、学力向上支援非常勤講師を配置し複数教員で授業を行うことで、きめ細やかな授業が実現し、主担当教員の負担軽減にも繋がる。
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	SC及びSSWの派遣は県費事業を活用している。県費事業で足りない部分については市費による派遣を実施し、学校からの要望に不足なく応えられた。適応指導教室の運営においても、学校、教育委員会、SC、SSW、保護者が情報共有を密にし、適切な指導が実施できた。
総合評価	学力向上支援非常勤講師の配置により、学習の理解度に応じた細やかな学習支援を行うことができた。この効果を可視化することは難しいが、チームティーチングにより個々の習熟度が高まり、学力向上に寄与できたと考えられる。また、講師のサポートにより主担当教員の業務負担が軽減されるため、働き方改革の観点からも効果は高い。 適応指導教室「すずらんルーム」では、再び学校に戻れるよう、一人一人の悩みや不安に寄り添いながらサポートを行った。保護者からの相談も多く、学校や関係機関等と連携しながら、より良い解決に向けて共に考え支援することができた。児童生徒の悩みは多様化し、それにより問題行動も複雑化している。今後もSC・SSW等の専門的知見を取り入れながら関係機関がチームとなり、問題の未然防止、早期解決につなげていきたい。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	指導体制の充実				所属課	指導課
事 業 名	特別支援教育支援事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	62,962	千円
	項	1	教育総務費	予 算 現 額	65,142	千円
	目	3	教育指導費	執 行 額	59,743	千円
	事業	9	特別支援教育支援事業	予算執行率	91.7	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 教育上特別な支援を必要とする児童生徒に対し、介助、学習支援及び安全確保等の合理的配慮の提供を行うことで、誰もが安心して生活できる学校づくりを目指す。

取組み : 小中学校に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒に対して、特別支援教育支援員を配置し、一人一人に応じた適切な教育支援を行う。

目的の達成状況

特別支援教育支援員(支援員)の配置については、教育支援委員会審議結果、指導主事や生徒指導相談員の学校訪問、学校との情報共有、学校からの要望をもとに、児童生徒の状況を把握し、特別な支援が必要な児童生徒に配置を行った。

支援員の配置により、対象児童生徒が安心した学校生活を送れるようになり、安定した学級運営にも寄与できた。

○支援員の配置状況

年度	配置学校数	配置人数
R3年度	8小学校	26名 ※延べ27名
R4年度	7小学校・1中学校	26名 ※延べ27名
R5年度	7小学校	28名 ※延べ29名
R6年度	7小学校	26名 ※延べ27名

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	特別な支援を要する児童生徒については、通常の学級運営だけでは配慮しきれない場面が多く存在する。支援員が個に応じた支援を行うことで配慮が充実し、児童生徒が「わかる」「できる」を感じる機会が増え、自己肯定感の向上につなげることができる。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	支援員の配置により、一人一人に合った支援ができるだけでなく、教員が授業に集中でき、クラス全体が落ちついて学べる環境が整う。すべての児童生徒にとって学校が安心して楽しく通える魅力的な環境であるために、支援員の配置は有効である。
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	対象児童生徒の実態、学校の状況、支援員の状況(経験等)を考慮しながら、支援が必要な児童生徒に合った支援員の配置を行った。数人の配置で学校全体を安定させる効果をもたらすことから、効率性は高いと考えられる。
総合評価	令和6年度は、特別支援学級に在籍する児童を中心に、7小学校へ延べ27名の支援員を配置した。それにより、対象児童について詳細な把握ができるようになり、担任と情報共有することで、個々のニーズに応じたきめ細やかな教育につなげることができた。 また、支援が必要な児童だけでなく、クラス全体が安心して学校生活を送れるよう環境を整えることができた。 支援員の支援力向上のため、生徒指導相談員による訪問研修、指導主事による個別面談を実施した。あわせて、特別支援学級担当教員向けにも研修会を実施し、学級全体の支援力の向上に努めた。 支援員の配置要望は年々増加傾向である。予算や人材の確保など懸念はあるが、関係機関との情報共有を密にし、今後も適切な配置を行っていきたい。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	幼児教育の充実				所属課	生涯学習課
事 業 名	家庭教育支援事業					
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算	1,291	千円	
	項 5	社会教育費	予 算 現 額	1,447	千円	
	目 1	社会教育総務費	執 行 額	1,352	千円	
	事業 8	家庭教育支援事業	予算執行率	93.4	%	
			事業進捗率	100.0	%	

事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 家庭の教育力の向上を図るため、子どもの発達段階に応じて保護者への学習機会を提供する。

取組み : 幼稚園、小中学校に開設された「家庭教育学級」の活動に対する支援。
就学時健診の待ち時間を活用した「学童期子育て講座」の開催。
訪問型家庭教育支援事業の実施。

目的の達成状況

幼・小・中学校の全15学級545名で開設した家庭教育学級では、話し合いを基本とした講話型・サロン型の学習や親子体験の活動など様々な取り組みを実施した。2月には講師に日本ペップトーク普及協会認定講演スピーカー西山崇子氏を招き、子どもとの関わり方を見直すきっかけとなるようペップトークを題材とした全体研修会を開催し48名が参加した。

また、就学時健診時の待ち時間を活用した学童期子育て講座では入学に向けての心構えをテーマとした講話に加えて、グループワークを行い保護者同士がつながることのできる場を提供した。

訪問型家庭教育支援事業においては、4人の家庭教育支援員が保護者からの相談への対応として訪問による面談や電話相談、メールでの相談を実施した。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	目的は明確であり、社会教育の中でも上位の施策としている。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	子どもの発達段階に応じた事業の開催であるため、対象となる保護者は概ねカバーできている。 家庭の教育力の向上には有効である。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	専門的な知識を必要とするため、人材確保とコスト削減が難しい。 経費及び対象範囲は概ね適正であるが、講師の人材確保が課題となっている。
総合評価	家庭の教育力の低下が指摘されるなか、ますます家庭教育学習の機会や地域の教育力の向上が重要となっている。その課題に対する取り組みとして子どもの発達段階に応じた学習機会を保護者に提供し、家庭の教育力の向上を図ってきた。今年度は、昨年度に引き続き家庭教育学級や学童期子育て講座の際に積極的にグループワークを取り入れるなど、家庭教育において情報共有ができる子育て仲間を増やすことを目標とした取り組みを実施してきた。また、家庭教育学級生や小中学校の1年生の保護者を対象とした、「子育て世帯の困りごと把握のためのアンケート」を実施し訪問型家庭教育支援員による相談活動を行った。継続支援している家庭には外国籍の家庭があるなど支援内容が多様化しており、今後、支援員の人材育成や確保が課題となっている。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名		青少年健全育成の推進			所属課	生涯学習課			
事 業 名		二十歳の集い事業							
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	1,584 千円				
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	1,584 千円				
	目	1	社会教育総務費	執 行 額	1,467 千円				
	事業	12	青少年育成事業	予算執行率	92.6 %				
				事業進捗率	100.0 %				
事業の目的及び今年度の取組み									
目的 : 20歳を迎えた成人者に対し、祝福と激励を送り、社会人としての責任ある行動をとるよう自覚を促す。									
取組み : 20歳を迎える方と、次年度に20歳を迎える方で「二十歳の集い実行委員会」を組織し、実行委員長を中心に式典の企画、運営などの協議を実施した。 ○令和7年二十歳の集い:令和7年1月12日(日)実施(実行委員33名) ・実行委員会 計5回(前日リハーサルを含む) ・式典出席者 304名(出席率65.1%)									
目的の達成状況									
令和7年二十歳の集いでは、実行委員の運営・進行のもと、多くの家族の方や来賓の方から祝福をいただき、代表者による二十歳の抱負を述べた。 また、準備においても、学業や仕事などの時間的な制約があるなかでも、実行委員が積極的に活動し式典をつくりあげることができた。									
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低			理 由					
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い			式典は大人の仲間入りの行事として定着しており、20歳の参加者はもとより、家族等の関心も高い。 式典準備や事務などは事務局(市)が行っており、実行委員と事務局が連携し式典準備を進めている。					
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い			20歳の成人が主体的に企画運営する式典となっており、日本人の出席率も高い。 また、通学などで市外在住の方も地元鉢田市の式典に参加するなど、シビックプライドの醸成の機会ともなっている。					
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い			当日の運営には、実行委員だけでなく高校生ボランティアや青少年健全育成団体の協力を得ながら運営をしている。 「人生において大切な行事」「節目」としてとらえている参加者も多く、理容関係、呉服関係、飲食関係など地域への経済効果もあると見込まれる。					
総合評価	実行委員会の運営においては、引き続き実行委員からの呼びかけや中学校への協力を依頼することにより人材の確保に努める。また、遠方の実行委員の方もリアルタイムに会議に参加できるようにオンライン会議等を活用している。 式典当日は、ボランティアの協力を得ながら、教育部内で連携しながら式典運営に努めた。結果として、混乱もなく厳粛かつ和やかに式典は終了し、参加者から満足している様子が伺えた。								

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名		青少年健全育成の推進			所属課	生涯学習課			
事 業 名		花いっぱい運動事業							
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	297 千円				
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	297 千円				
	目	1	社会教育総務費	執 行 額	286 千円				
	事業	12	青少年育成事業	予算執行率	96.3 %				
				事業進捗率	100.0 %				
事業の目的及び今年度の取組み									
<p>目的 : 地域住民や児童・生徒の環境美化に対する関心や意欲を高めるとともに、花壇づくりを通して地域コミュニティの再生・活性化を促進し、青少年の健全育成を図る。</p> <p>取組み : 「花いっぱい運動」に取り組んでいる団体(幼稚園、保育所(園)、小中学校、希望団体、職場等)の活動を支援するため、花の種子を配布した。 また、花いっぱい運動の輪を広げるために、「花いっぱいコンクール」を開催し、優れた団体を表彰するほか、活動写真を展示するなどして周知を図った。</p>									
目的の達成状況									
<p>花の種子を31団体に配付、花壇づくりをとおして環境美化意識の醸成と地域コミュニティの維持に寄与した。</p> <p>市独自の「花いっぱいコンクール」を開催し、参加した18団体の現地審査、表彰式を開催した。</p> <p>また、団体の活動成果として花壇の写真等を市内4か所(各公民館、旭総合支所)にパネル展示を行った。</p> <p>各団体とも、環境美化への意識が高く、地域コミュニティの活性化、青少年の健全に育成へ貢献している。</p> <p>また、前年度の最優秀団体2団体に対し全国花のまちづくりコンクールへの推薦の打診を行い、1団体が参加し入選を果たした。</p>									
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低		理 由						
妥当性	4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		<p>地域の住民、児童・生徒の環境美化に対する関心を高める意義は大きい。活動団体数は横ばいとなっているが、団体の関係者の高齢化や地域コミュニティの衰退が原因と考えられる。</p> <p>しかしながら、環境美化事業としては、妥当性は高く、青少年健全育成につながっている。</p>						
有効性	4 3 2 1 高い ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		<p>種子の配付や「花いっぱいコンクール」の実施により市内各所に花壇が整備され環境美化につながっている。また、地域の名物となっているものあり環境美化だけでなく、地域資源の活用にもつながっている。</p>						
効率性	4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> 低い		<p>参加者の意欲は高く、地域の交流や子どもたちの通学時のあいさつ声かけ運動にも繋がっている。また、花壇づくりを通して地域のふれあいの場ともなっており、地域を元気にしようとする取り組みの一助としての意義は大きい。</p>						
総合評価	<p>団体の参加数は横ばいであるが、市内で整備されている花壇の場所などが周知されることで花壇を見学に来る人も多く、地域資源の活用につながっている。</p> <p>また、「花いっぱいコンクール」を実施することにより、審査や評価されるといった意識を持つことで、団体のモチベーション維持・向上につなげている。</p> <p>近年、地域コミュニティの希薄化が進むなか、花いっぱい運動は、地域コミュニティ維持の一助となっている。</p>								

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名		生涯学習活動の活性化			所属課	生涯学習課
事 業 名		放課後子供教室推進事業				
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	876 千円	
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	711.0 千円	
	目	1	社会教育総務費	執 行 額	424.0 千円	
	事業	15	放課後子供教室推進事業	予算執行率	59.6 %	
				事業進捗率	100.0 %	
事業の目的及び今年度の取組み						
<p>目的 : 子どもたちに放課後や週末などの安全・安心な居場所を提供するため、小学生を対象に公民館や生涯学習館を活動拠点とした自主学習の支援、多様な学習・体験プログラムを実施し、教育活動の充実を図る。</p> <p>取組み : 毎月1回土曜日に、生涯学習館「とくしゅくの杜」、旭・大洋公民館を活用し、学習支援員による補充学習、おもしろ理科先生などの外部講師やとくしゅくの杜職員による体験学習を実施した。 学習支援員に対し事前打合せ会を開催して情報共有を図るとともに、事業運営をスムーズに行うために外部講師との連絡を密にした。</p>						
目的の達成状況						
<p>令和6年度から、おもしろ理科先生や、とくしゅくの杜職員による体験講座も取り入れたことで、参加者から好評を得た。参加者が少ない講座もあり、周知方法等についてさらなる改善が必要と考える。</p> <p>延べ開催回数 15回 延べ参加人数 121名 事業周知:広報誌掲載、チラシ配布、SNS広報</p>						
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低			理 由		
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い			児童の安全な場所づくりや学習の場のために、放課後子供教室の必要性は高く、行政が行うことで、保護者も安心して児童を参加させることができる。		
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い			対象を市内の小学生とすることで、事業の意図と受益者の整合を図っている。 体験学習を取り入れた活動を実施することで、直接的に学ぶ機会の提供になり、有効と考える。		
効率性	4 3 2 1 高い □ □ ■ □ 低い			講師謝礼は安価に設定されており、材料費等は参加者負担となっている。 ポスターだけでなくSNSも活用し講座開催の周知をしたが、参加者が少ない講座が見受けられた。周知方法等についてはさらなる改善が必要。		
総合評価	<p>延べ開催数については一定程度確保できた。</p> <p>多くの教室に参加した児童がいることから教室の内容そのものは魅力的なものが多くあったと思料するが、一方で特定の教室に絞って参加した児童がいることから、教室がより魅力的なものになるよう継続的な内容の見直しは必要である。</p> <p>また、事業の認知度を高めるため、周知方法の改善に取り組みたい。</p>					

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名		生涯学習活動の活性化			所属課	生涯学習課
事 業 名		生涯学習館管理運営事業				
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	20,468	千円
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	20,874	千円
	目	1	社会教育総務費	執 行 額	18,119	千円
	事業	18	生涯学習館管理運営事業	予算執行率	86.8	%
				事業進捗率	100.0	%
事業の目的及び今年度の取組み						
目的 : 市民・地域と協働・連携を図りながら、生涯学習や教育活動を推進し、文化の向上と歴史民俗資料等の活用を図り、生涯学習館の効率的な運営を行う。						
取組み : 運営ボランティア活動(体験事業のサポート、展示物の清掃等) 企画展の実施、来館者への案内・解説 小学生、幼稚園児向けの事業の実施 講座・講演会の開催						
目的の達成状況						
とくしゅくの杜市民学芸員運営協議会と共に企画展の実施(2回) 体験事業(小学生対象)の実施 校外学習の受入(8小中学校2幼稚園 767人) 講座・講演会の開催						
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低		理 由			
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		閉校した小学校を改修し、学習・展示棟として活用している。			
有効性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		展示エリアでは、常設展や企画展が開催され、鉢田市に関係が深い文化財や歴史民俗資料等が展示されており、鉢田市の歴史及び文化を尊重し、郷土を愛する心の醸成が期待できる。			
効率性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い		鉢田市に点在している文化財や歴史民俗資料等を集約し活用することで、利便性向上を図ることができる。			
総合評価	貴重な文化財や歴史民俗資料等を展示している他、「とくしゅくの杜市民学芸員」による趣向を凝らした企画展が定期的に開催されるなど、郷土の歴史・文化を知るうえで貴重な施設となっている。市文化協会や小中学校児童生徒の作品展の開催など市民活動の発表の場として、さまざまな角度から活用機会が増えている。					

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	文化財の保護・啓発				所属課	生涯学習課
事 業 名	文化財保護・啓発事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	3,030	千円
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	4,097	千円
	目	4	文化財保護費	執 行 額	2,939	千円
	事業	1	文化財保護・啓発事業	予算執行率	71.7	%
				事業進捗率	100.0	%
事業の目的及び今年度の取組み						
目的 : 文化財はわが国の歴史、文化等の正しい理解のために欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることから、指定文化財を恒久的に保存し、未来へ継承するため保護啓発を行う。						
取組み : 文化財保護審議会の運営 埋蔵文化財の照会に係る調査 指定文化財保護ための補助事業の実施(1件:諏訪神社樹叢)						
目的の達成状況						
文化財保護審議会の開催 埋蔵文化財照会308件(延べ786筆) 茨城県文化課と合同の文化財巡視(年2回延べ44か所) 鹿行文化財研究会の研修会への参加 文化財防火デー文化財警防訓練の実施 指定文化財の保護に資する補助事業の実施						
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低		理 由			
妥当性	4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> 低い		文化財は国民共有の財産として、次世代へ継承していく責務がある。文化財は、地域の歴史・文化を知るための貴重な教育的資料であることから、文化財の保護啓発に関する事業は公益性が高い。			
有効性	4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> 低い		次世代を担う子どもたちが文化財に触れることを通して、地域の歴史や文化を理解する一助になるとともに、郷土愛を育むことに大きく寄与する。			
効率性	4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> 低い		埋蔵文化財照会は増加傾向にあり、確認に時間を要していたが、令和3年度に地図情報システムを導入したことにより、確認作業が容易になり、事務の効率化が図られている。			
総合評価	文化財保護法や県・市文化財保護条例の規定に基づき、文化財の保護・保存を進めていく必要がある。 文化財の保護に関しては所有者または管理者の負担軽減を図るため、今後も補助金の確保に努めていく必要がある。					

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	スポーツ・レクリエーション活動の推進				所属課	生涯学習課
事 業 名	部活動地域移行実証事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	0	千円
	項	5	社会教育総務費	予 算 現 額	1,773	千円
	目	1	社会教育総務費	執 行 額	1,174	千円
	事業	22	部活動地域移行実証事業	予算執行率	66.2	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 令和5年度からの3年間を休日の部活動の地域移行改革推進期間として国が位置づけたことを受け、休日の部活動を段階的に地域移行するため、茨城県からの再々委託を受け実証事業を行う。

取組み : クラブの指導者及び活動場所の確保
クラブ活動に必要な消耗品の手配

目的の達成状況

実証実験として、①軟式野球(旭・鉢田南合同)、②サッカー(鉢田北・鉢田南合同)、③吹奏楽(鉢田北・旭合同)の休日における部活動をクラブとして実施した
部活動にない競技種目として④フランクフットボールのクラブ化を実施した。
(指導者10名、53名参加)

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	国が示している部活動地域を確実に実施するために必要な事業である。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	地域クラブ体制構築に向けた有効な事業である。
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	部活動顧問の先生、部活動指導員及び外部コーチを指導者として迎え入れていたため、地域クラブとしての指導を効率的に実施できた。
総合評価	本市の実証事業では、既存の合同部活動を指導している顧問及び外部コーチがクラブの指導者として従事して、学校施設や部活動の備品を活用し実証事業に取り組むことができた。 部活動と同じ環境でクラブ活動を実施できたことから、生徒の混乱を避けることができ、スムーズに地域クラブ活動を実施できた。 部活動にない競技種目としてフランクフットボールを実施し、多様な種目を体験できる機会を創出した。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名		スポーツ・レクリエーション活動の推進			所属課	生涯学習課
事 業 名		スポーツクライミング推進事業				
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	7,919	千円
	項	6	保健体育費	予 算 現 額	8,119	千円
	目	1	保健体育総務費	執 行 額	7,057	千円
	事業	7	スポーツクライミング推進事業	予算執行率	86.9	%
事業の目的及び今年度の取組み						
目的的 : スポーツクライミングの拠点づくりを目指し、市民の心身の健全な発達、明るく豊かな生活の形成、活力ある社会を実現し、市の魅力発信につなげる。						
取組み : クライミング体験教室の開催 クライミングウォール使用資格講習会の開催 クライミング各種大会の開催						
目的の達成状況 クライミング体験教室(クライムほこた、ナイト！クライム！) 8回開催 延べ人数139名 クライミングウォール使用資格認定講習会 3回開催 参加人数 57名 小学生クライミング教室 7校開催 参加人数385名 スポーツクライミング競技大会 5回開催 ①第4回とくしゅくの杜メロンカップ、②国民体育大会茨城県大会、③ボルダーフューチャーカップ 鉾田2024(全国大会)、④坂場杯、⑤第10回関東小中学生選抜スポーツクライミング選手権大会						
		高 ← 事業の評価 → 低	理 由			
妥 当 性		4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	本市が、国体で会場となったスポーツクライミングを普及させることで、運動を通して、健康づくりに取り組む意識の向上を図かる。また、全国大会等を開催することで、スポーツクライミングセンターを広く周知することができる。			
有 効 性		4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	クライミング体験教室を開催することで、生涯スポーツの一環として、スポーツに楽しむ機会を提供し、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得につなげることができた。			
効 率 性		4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	茨城県山岳連盟の協力を得て効率的に実施している。市内全小学校6年生の校外学習を受け入れ、体験教室を実施している。			
総合評価		体験教室を開催することにより、市民にスポーツに親しむ機会を提供することができた。スポーツ実技の指導及びスポーツに関する指導・助言を行うことにより、クライミングの普及向上を図ることができた。 スポーツクライミングセンターにおいて、とくしゅくの杜メロンカップやボルダーフューチャーカップ鉾田2024(全国大会)などの大会を開催することで、スポーツクライミングと本市の魅力をPRすることができた。				

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名		スポーツ・レクリエーション活動の推進			所属課	生涯学習課			
事 業 名		スポーツ推進事業							
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	4,565 千円				
	項	6	保健体育費	予 算 現 額	4,865 千円				
	目	1	保健体育総務費	執 行 額	4,661 千円				
	事業	3	スポーツ推進事業	予算執行率	95.8 %				
				事業進捗率	100.0 %				
事業の目的及び今年度の取組み									
目的 : 市民が生涯を通じて身近にスポーツに親しむ機会を提供し、スポーツの持つ楽しさや交流を通じて、身心の健全な発達、明るく豊かな市民生活の形成に寄与する。									
取組み : 春季・秋季卓球教室、バドミントン教室、小学生フラッグフットボール教室を開催 市スポーツ協会、市スポーツ少年団へ補助金を交付し活動を支援 第22回鉢田杯中学校軟式野球大会 第19回鉢田市中学校剣道大会及び第19回鉢田市中学生柔道大会を開催									
目的の達成状況									
卓球教室(春季・秋季) 延べ163名参加 バドミントン教室 延べ 56名参加 小学生フラッグフットボール教室 6校259名が受講 第22回鉢田杯中学校軟式野球大会 26校参加 第19回鉢田市中学校柔道大会 12チーム参加 第19回鉢田市中学校剣道大会 18校参加 市スポーツ少年団スポ少まつり及び指導者研修会									
評価項目	高  事業の評価 → 低		理 由						
妥当性	4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> 低い		市民がスポーツをとおして健康の維持増進を図るだけでなく、生きがいや幸福を享受できるようにするとともに、豊かさを実感できる社会を実現するためにも、教室や大会の開催は重要である。						
有効性	4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> 低い		スポーツ教室を開催することで、参加者が生涯にわたってスポーツに親しむきっかけにつなげることができた。 スポーツ大会を開催することで、参加生徒が競技技術の向上を図ることができたほか、他校生徒との交流を図ることができた。						
効率性	4 3 2 1 高い <input type="checkbox"/> ■ <input type="checkbox"/> 低い		軟式野球大会については、鉢田ライオンズクラブ、市内中学校の協力により実施している。 各種教室、大会の開催については、市スポーツ協会所属の競技連盟の協力により実施している。						
総合評価	卓球教室、バドミントン教室、小学生フラッグフットボール教室などのスポーツ体験教室を通じ、市民がスポーツに触れ合える機会を提供し、スポーツの持つ楽しさや交流など、市民の健康意識向上及び健康増進並びに競技水準の向上などスポーツ振興について推進を図ることができた。 また、中学校部活動の競技種目における大会を開催し、競技技術の向上を図るだけでなく、困難に立ち向かい未来を切り拓く心豊かな青少年の健全育成に寄与した。								

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名		スポーツ・レクリエーション活動の充実			所属課	生涯学習課			
事 業 名		体育施設管理事業							
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	163,291 千円				
	項	6	保健体育費	予 算 現 額	167,348 千円				
	目	2	体育施設費	執 行 額	164,244 千円				
	事業	1	体育施設管理事業	予算執行率	98.1 %				
				事業進捗率	100.0 %				
事業の目的及び今年度の取組み									
目的 : 公共施設等総合管理計画及び個別施設計画に基づき、市民が身近にスポーツに親しむことができるよう施設の利用促進に向けて、施設の維持管理及び施設の機能充実を図る。									
取組み : 老朽化した施設の修繕を実施し利用者の安全確保に努めた。また、施設の改修を実施し、利用者の利便性の向上に努めた。									
目的の達成状況									
施設管理 旭スポーツセンター、鉢田総合公園、くぬぎの森スポーツ公園、大洋運動場、大洋武道館等の管理及び、閉校小学校体育館等の管理。									
主要工事 旭スポーツセンター野球場改修工事 くぬぎの森スポーツ公園LED照明整備工事									
評価項目	高 ← 事業の評価 → 低		理 由						
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		スポーツ振興及び施設の利用促進のため、維持管理することや、修繕・改修を施すことは必要であり、今後も利用者の安全面や利便性を考慮しながら、計画的な実施必要である。						
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		体育施設の維持管理や環境整備は、市民のスポーツ振興及び健康増進並びに利用者の安全確保に有効である。						
効率性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い		改修等を行う際は、可能な限り集中的に工事を実施することで、施設の利用に支障が出ないように努めた。						
総合評価	体育施設の維持管理や修繕・改修は、サービス水準を維持していくためにも必要な事業である。限られた財源のなかで、最大限の効果が発揮できるよう緊急性や必要性を考慮しながら遂行していきたい。 今後も市民が安心して安全にスポーツに親しむことができる環境づくりのため、計画的な維持管理を行う必要がある。								

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	生涯学習活動の活性化				所属課	公民館
事 業 名	公民館維持管理事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	84,331	千円
	項	1	社会教育費	予 算 現 額	53,466	千円
	目	2	公民館費	執 行 額	49,774	千円
	事業	2	公民館維持管理事業	予算執行率	93.1	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目 的 : 文化振興を図るとともに市民一人ひとりへの学習機会づくり、生涯を通じて「学ぶ」体制づくりに努める。

取組み : 鉢田中央・旭・大洋公民館における施設及び設備を良好に維持するため保守点検・修繕工事を実施する。

法定検査15件、保守点検48件、工事・修繕等25件の実施

[保守点検等の内容]電気工作物、自動ドア、消防用設備、地下油槽タンク、浄化槽、水質、空調設備等

[工事・修繕の内容]鉢田中央公民館テラス改修工事、鉢田中央公民館外壁タイル落下飛散防止工事、鉢田中央公民館消防設備修繕工事、鉢田中央公民館男子トイレ修繕工事等

目的の達成状況

施設及び設備等において法定検査・保守点検を実施し、工事・修繕を行い環境改善を図った。

主なものとして、鉢田中央公民館のテラス改修工事、外壁タイル落下飛散防止工事、消防設備修繕工事、男子トイレ修繕工事、旭公民館の玄関脇防水補修、大洋公民館のキッズルームフロアーカーペット改修等を行った。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	公民館は社会教育の活動拠点として、利便性の向上を図るために施設及び設備の維持修繕は必要である。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	学習の場所を提供するため、安全・快適な環境を整えることで多くの市民に使用していただいている。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	公民館3館は、施設及び設備等の老朽化により著しい機能低下があるため、改修工事及び修繕費用が増加傾向である。
総合評価	社会教育の活動拠点として、市民の教育活動の場所を提供している。改修及び修繕を行うことにより、安全・快適に利用できる環境を整えてきたが老朽化により修繕等費用が増加傾向のため、今後においては公共施設一体整備を見据えて、安心・安全を最優先にし、維持管理に努める必要がある。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名			郷土の自然・伝統・文化を継承し、生涯を通じて学び、活躍できる環境の充実		所属課	公民館
事 業 名			公民館運営事業			
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	6,266	千円
	項	1	社会教育費	予 算 現 額	5,406	千円
	目	2	公民館費	執 行 額	4,403	千円
	事業	22	公民館運営事業	予算執行率	81.5	%
			事業進捗率	100.0	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目的 : 文化振興を図るとともに市民一人ひとりへの学習機会づくり、生涯を通じて「学ぶ」体制づくりに努める。

取組み : 公民館運営審議会(2回) 公民館講座等(成人・青少年・高齢者)

[成人教育]定期講座(34回) 短期講座(26回)の開催 [青少年教育]定期講座(16回) 短期講座(18回)の開催

[高齢者教育]いきいき・高砂大学各5回 寿大学4回、移動学習1回

[常設展示]公民館講座及び定期クラブ等の作品展の開催

目的の達成状況

公民館運営審議会を開催し、事業進捗及び利用状況の報告、次年度事業計画等の審議を行った。

成人教育は、定期講座34回 短期講座26回の開催、延べ参加者521名、参加者満足度97.71%

青少年教育は、定期講座16回 短期講座18回の開催、延べ参加者415名、参加者満足度97.22%

公民館クラブ等の展示は、鉢田中央公民館(5団体)、大洋公民館(2団体)が実施。

高齢者教育は、15回開催。延べ参加者613名。講師登録支援は、登録者が5名。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	社会教育の活動拠点として、市民の教育活動の場所と学習機会を提供している。講座等は参加者アンケートを参考に計画しており、参加者の満足度も高かった。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	例年、多数の受講申込があり、参加者の満足度も高い。生涯学習の貴重な機会として機能している。また、ICTに関する講座を実施するなど、市民のICTリテラシーの向上につながっている。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	講座や講演の講師料などの経費については、必要最低限のものとしている。また、出前で派遣される講師などを活用し、コスト削減に努めている。
総合評価	各種講座や教室の開催により、市民の自主的な学習意欲の向上と仲間づくりをとおした生きがい作りの推進に努めることができた。 実施した講座等について、一部オンライン配信を行うことで、欠席の方への対応や、講座の復習の補助となるよう、効果的な事業運営ができた。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	文化・芸術活動の活性化				所属課	公民館
事 業 名	芸術文化創造事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	25,028	千円
	項	1	社会教育費	予 算 現 額	22,729	千円
	目	2	公民館費	執 行 額	20,776	千円
	事業	22	芸術文化創造事業	予算執行率	91.4	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目 的： 質の高い公演やアウトリーチ及び芸術団体への支援等を実施することで、市民が多様な文化に触れる機会を創出し、芸術文化活動の振興を図る。

取組み： 芸術文化鑑賞(ホール公演)の開催(公演9回)、市民劇団(練習月2回・公演2回)・市民合奏団(練習月2回・公演1回)への活動支援
音楽アウトリーチ(16公演・市内幼稚園・小中学校・県立高校附属中学校)、楽器別クリニック(4中学校)
ミュージカルワークショップ(計2回)

目的の達成状況

市民が多様な、文化に触れる機会を創出するために、クラシック、邦楽、ファミリーコンサート、講談会などを実施するとともに、邦楽公演(琉球音楽)を初開催したことや、市民劇団・合奏団による定期公演を開催し、入場者数は延べ2,308人(1公演当たり192.3人/定員300人)となり、一部YouTube配信を実施するなど、市民へ多様な文化に触れる機会を提供した。また、市内の幼稚園・小中学校において実施したアウトリーチでは、クラシック、邦楽、声楽、影絵劇などのミニコンサートを行い、延べ2,512人の子どもたちへ音楽の素晴らしさを届けることができた。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	文化・芸術は心豊かな生活を実現していくために必要不可欠なものであり、一人でも多くの市民が多様な文化・芸術を享受できるよう事業を推進する必要がある。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	プロのアーティスト等による高い芸術文化に触れる機会を提供することに努めており、観覧者へのアンケートにおいても「満足」の回答は9割を超え、事業の効果は直接的であり、極めて有効な事業である。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	コンサート等の提供型イベント開催だけではなく、市民参加型の市民劇団・合奏団への支援により団体の自立的な活動を促した。また事業費に応じて有料公演(12公演中10公演)にするなど費用対効果を考慮して事業を実施した。
総合評価	幅広い年齢層の方に文化芸術に触れる機会を創出するため、引き続き親子映画鑑賞会を実施し、芸術文化の振興を図った。また、初開催となる邦楽公演(琉球音楽)を助成事業を活用して実施した。公民館ホールにおける舞台の狭小さ、限られた設備と観覧席数の中で、より多くのお客様に公民館へお越しいただき、いかに多くの方へ文化芸術に触れる機会を提供していくかが今後の課題である。引き続き、来なくて済む窓口の整備を進めるとともに、学校や関係部局と連携しつつ、SNS等を活用した広報も活用しながら新たな公民館利用者を獲得するなど、市民の文化意識の向上を図るために各事業を展開していく。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	地域資源を活用した生涯学習活動の活性化				所属課	図書館
事 業 名	図書館維持管理事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	7,497	千円
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	7,356	千円
	目	3	図書館費	執 行 額	7,320	千円
	事業	2	図書館維持管理事業	予算執行率	99.5	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目的 :生涯学習の拠点施設として、快適に利用できるよう館内外の環境整備に努める。

取組み :定期的な施設の保守点検を実施するとともに、老朽化及び破損した施設や機器の修繕、備品の更新を行う。

- ・保守点検内容 図書館情報システム、消防用設備、自動ドア等
- ・修繕・工事個所 外壁のコーティングの打ち換え及び玄関タイルの修繕工事や地下埋設重油タンク廃止工事等

目的の達成状況

老朽化した施設の外壁コーティングの打ち換え及び玄関タイルの修繕や、各種保守点検を実施し

市民へ快適で安全な施設利用を確保するとともに、円滑な図書館の維持管理により安定した利用者サービスを提供することができた。また、更なる利用者サービスの安全を確保するため、外壁の劣化度について調査した。

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	安全安心に配慮した施設管理に努め、利用者に快適な環境を提供するのは、管理者としての責務である。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	適切な施設の維持管理により、利用者に快適な環境を提供することができた。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	予算を有効かつ効果的に活用し維持管理に努めた。保守点検及び修繕については、可能な限り休館日に実施し利用の妨げにならないよう工夫している。
総合評価		適切な施設整備により、利用者が快適に過ごせる環境整備に努めた。建物壁面は劣化が著しいため、令和6年度は外壁劣化度調査を実施し、今後、修繕するための現状把握に努めた。引き続き、公共施設の一体整備を見据えた維持管理を図るとともに、利用者の安全を考慮した施設の運営に努める必要がある。

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	地域資源を活用した生涯学習活動の活性化				所属課	図書館
事 業 名	図書館運営事業					
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算	9,985	千円	
	項 5	社会教育費	予 算 現 額	10,350	千円	
	目 3	図書館費	執 行 額	10,035	千円	
	事業 3	図書館運営事業	予算執行率	97.0	%	
			事業進捗率	100.0	%	

事業の目的及び今年度の取組み

目 的 :市民が利用しやすい図書館の整備とサービスの充実に努める。

取組み :図書館協議会の開催

企画コーナーの設置及び情報発信による利用啓発

あかちゃんタイム、おたのしみ会の実施

「としょかん1年生」事業による小学1年生の利用促進

県立図書館をはじめ県内図書館との資料の相互貸借の利用

目的の達成状況

貸出者(利用者)数 24, 355人(前年19,797人 23%増)

資料貸出数 72,675点(前年78,515点 7.4%減)奉仕人口一人当たり1. 580点

あかちゃんタイム 利用者:83組256人 おたのしみ会 11回実施 参加者:129人

としょかん1年生 配付:56人 配付率18.1%

相互貸借 借受:523冊 貸出:93冊 (昨年度 借受:609冊 貸出:105冊)

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	カウンター業務及びレファレンスサービス、資料の予約リクエスト等、利用者が必要とするサービスの充実に努めた。
有 効 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	時節や行事にちなんだ図書を配架する企画コーナーを設置するとともに、市広報及びSNS等を活用した図書情報の提供により利用促進を図ることができた。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	県内の図書館との相互貸借やレファレンスサービス、企画展示等サービスの充実により、利用者は増えている。また、学校配本事業の実施により団体貸出も伸びている。
総合評価	読書意欲の向上を促すべく年間を通して企画展示を行うとともに、資料の予約リクエストサービスに努め、市広報及びSNS等を活用した図書情報の提供を行い利用促進を図った。 入館者数は、前年度と比較すると伸びているが、コロナ禍前には及ばない。引き続き、利用促進及び読書推進を図るため、更なる企画展示などの工夫が必要である。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	地域資源を活用した生涯学習活動の活性化				所属課	図書館
事 業 名	図書館資料収集事業					
予 算 科 目	款 9	教育費	当 初 予 算	6,273	千円	
	項 5	社会教育費	予 算 現 額	6,383	千円	
	目 3	図書館費	執 行 額	6,382	千円	
	事業 4	図書館資料収集事業	予算執行率	99.9	%	
			事業進捗率	100.0	%	

事業の目的及び今年度の取組み

目 的 :市民のニーズに応えるべく広範囲な分野の資料を計画的に収集し、一般の利用に供する。

取組み :利用者の貸出状況やリクエストをふまえ広範囲な分野から資料を選定し、計画的かつ効果的な資料収集に努める。

地域資料の収集・整備及び保存に努める。

絵本及び児童書の更新を図る。

目的の達成状況

購入資料内訳 図書 3,352冊 紙芝居 39冊 DVD 2点 CD 12点 雑誌 35誌 新聞 8紙
うちリクエスト購入数 図書107冊

視聴覚資料複写保存

地域資料の収集・整備

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	予算を有効に活用し、蔵書構成、貸出状況、リクエスト等を勘案し資料の充実を図った。
有 効 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	広範囲な分野の資料を計画的に収集することにより、利用者のニーズに応えることができた。 古書店からの購入及び個人からの寄贈により、地域資料の整備を行い蔵書の充実を図ることができた。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	資料の受け入れ先を広げることにより、欠本していた資料を補充するなど効率的に収集することができた。
総 合 評 価	市民の知的好奇心と多様なニーズに応えるため、幅広い資料の収集と整備を図り求められる資料や情報を提供することができた。 利用者にとって魅力ある蔵書構成の構築及び蔵書の新鮮度を高めるため、市民目線での資料収集及び更新を図って行く。 経年劣化による蔵書の買い替え、新しい情報に対応することや更なる蔵書の充実を図るための予算確保が必要である。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	地域資源を活用した生涯学習活動の活性化				所属課	図書館
事 業 名	ブックスタート事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	524	千円
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	550	千円
	目	3	図書館費	執 行 額	550	千円
	事業	6	ブックスタート事業	予算執行率	100.0	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目 的 :乳児健診にあわせて事業を実施。絵本を2冊配るとともに、ボランティアによる絵本を開く楽しい体験を通じ、心触れ合う機会の提供と読書に親しむきっかけを作る。

取組み :ブックスタートパック(絵本2冊、布製パック、パンフレット「はじめての絵本」等配付

フォローアップとして

- ・あかちゃんタイムの実施
- ・あかちゃん絵本コーナーの充実

目的の達成状況

ブックスタートパックの配付 受領者:174人

あかちゃんタイムの利用 利用者:83組 256人

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	あかちゃんが読み聞かせの声に反応する様子を、保護者が間近に見聞きし、一緒に絵本を楽しむことを体験する貴重な機会となっている。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	月齢に適した絵本を配付し、ボランティアによる読み聞かせを体験することにより、自宅でも絵本に親しむきっかけづくりをすることができた。
効 率 性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	子ども家庭課で実施する乳児健診にあわせて実施することにより、地域に生まれた赤ちゃんと保護者にもれなく絵本を手渡し事業の目的を伝えることができた。 また、図書館事業の案内とともに来館を促すことができた。
総合評価	ブックスタートを通して、乳幼児に本と触れ合う機会を増やせたと考える。図書館の利用促進をアピールする機会ともなった。 図書館内では乳幼児と保護者が一緒に絵本に親しんでもらえる場所を確保(あかちゃん絵本コーナー)し、利用が容易な環境の整備(あかちゃんタイム)を行った。 今後もすべての子どもたちが本に接し読書に興味・関心が持てるよう、発達段階に応じた支援をしていくことが必要である。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名	地域資源を活用した生涯学習活動の活性化				所属課	図書館
事 業 名	学校配本事業					
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	3,460	千円
	項	5	社会教育費	予 算 現 額	3,770	千円
	目	3	図書館費	執 行 額	3,711	千円
	事業	9	学校配本事業	予算執行率	98.4	%
				事業進捗率	100.0	%

事業の目的及び今年度の取組み

目 的 :小中学校に図書を定期配本することで、学校図書館との連携を図るとともに、児童・生徒の読書環境の充実を図る。また、団体貸出しや市立図書館コーナーを設置することにより読書意欲の創出につながる。

取組み :①授業の補助教材、読書の時間帯で活用する図書を市立図書館の司書が選び、図書館員が学校へ届けることで利便性の向上を図る。

②学校図書館に市立図書館の司書が選書・展示する特設コーナーを設け、読書環境の充実を図る。

目的の達成状況

① 配本サービス(団体貸出) 利用校:4校のべ15回(35件)(1,502冊)

(内訳)補助教材 利用校:3校のべ8回(8件)(302冊)

学級文庫 利用校:3校のべ7回(27件)(1,200冊)

② 市立図書館コーナーの設置 利用校:10校のべ25回(25件)(1,761冊)

評価項目	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥 当 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	事業の推進により、児童生徒の読書環境の充実及び利便性の向上を図ることができた。
有 効 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	学校図書館への図書館コーナーを設置することで、本に興味関心を持つ児童・生徒が少しも増え読書意欲の創出につながった。
効 率 性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	本の更新が進まない学校図書館の現状を考えると、市立図書館の本を小・中学校に別置することで、読書環境の充実と利便性の向上を図ることができた。
総合評価	子どもたちの身近に本のある環境を増やすとともに事業の推進を図っていく必要があるが、限られた予算内で効果的な事業展開を図る必要がある。	

令和7年度 教育委員会の点検・評価シート(令和6年度事業)

施 策 名			子どもたちの教育環境の向上			所属課	鉢田学校 給食センター
事 業 名			鉢田学校給食センター運営管理事業(鉢田学校給食センター) 鉢田学校給食センター運営管理事業(地方創生臨時交付金事業)				
予 算 科 目	款	9	教育費	当 初 予 算	415,627	千円	
	項	6	保健体育費	予 算 現 額	426,409	千円	
	目	3	学校給食費	執 行 額	406,688	千円	
	事業		鉢田学校給食センター運営管理事業	予算執行率	95.4	%	
				事業進捗率	100.0	%	

事業の目的及び今年度の取組み

目的:旭・鉢田・大洋地区の幼稚園・小学校中学校の園児児童生徒へ安心で安全な給食を確実に提供する。

取組み:給食従事者の衛生管理(定期的腸内菌等検査、健康管理)の実施、学校給食衛生管理基準及び異物混入対応マニュアルに則った作業の実施により不適正事案の防止に努めるとともに、給食物資納入業者の指導、学校、配達、配膳に関わる者と連携を図り安全で安心な給食の提供に努める。

給食にかかる物価高騰対策として昨年度同様、地方創生臨時交付金事業を活用していく。

目的の達成状況

市内小中学校幼稚園に194日(約3,400食/日 7小学校・5中学校・4幼稚園・センター)給食を提供した。

衛生管理については、衛生管理基準及び異物混入対応マニュアルに則り食中道対策、食物アレルギー対応並びに異物混入防止対策に努めたが、異物混入事案については発生しており、調理前の食材の点検技術の向上を図る必要があった。また、食材の納入業者に対しても、食材の点検作業による疑義のある食材については改善を求めた。不適正事案については、個別具体的に改善した作業手順等をマニュアル化してデータとして整理し、給食業務従事者へ周知、研修するなど改善を図った。

賄材料費や燃料費の物価高騰に対し、地方創生臨時交付金事業を活用することで、給食費を増額することなく高騰前と変わらない質・量を確保した給食の提供に努めた。

	高 ← 事業の評価 → 低	理 由
妥当性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	学校給食の実施者として市が責任をもってセンター方式により運営することによって、学校給食事業の安定的な運営がなされている。また、子どもたちの健康はじめ、栄養の偏りや食習慣の乱れを改善するなど、学校生活において重要な役割を果たしていることから妥当性は高い。
有効性	4 3 2 1 高い ■ □ □ □ 低い	市が学校給食を実施することで、調理業務委託によって必要な人員と調理技術を確保し、食中毒・異物混入・アレルギーに対応し、安定した業務運営ができる有効な事業である。
効率性	4 3 2 1 高い □ ■ □ □ 低い	安心で安全な給食を提供するうえでは、丁寧な作業と技術の向上を図る教育訓練等が必要であることから、着実に取り組む必要がある。
総合評価	安心で安全な給食を確実に提供していくために、適切な施設・設備の保守管理を継続していくとともに、徹底した衛生管理、異物購入防止対策を追求していく必要がある。また、保護者や子どもたちの安心を育むことは大切なので、引き続き不適正事案については、発生防止に努めるとともに、説明責任を果たしていく必要がある。	

第4章 評価委員の意見

○ 教育委員会の活動状況

- 教育委員会の設置、教育長及び委員の任命・構成、会議（定例会・臨時会）が関係法令に従って適切に行われている。会議の持ち方も、協議の場を設け積極的な意見交換ができるように配慮している点も評価できる。教育委員の活動の中で、学校等施設訪問・行事への参列など教育委員が積極的に学校と現場へ訪問している。現場を直接見て、現場の生の声に耳を傾けることは重要である。今後とも大切にしていただきたい。
- 委員が現場に出向いて、しっかり現場の状況を確認できていることを、評価したい。定例会の委員の人数を増やして、いろいろな角度から意見をもらっているようなので、素晴らしいです。
- 教育委員による学校等視察が行われることで、施設・設備や子供たちの状況をしっかりと把握することができる。現場の今の状況を、会議や協議に生かしていただきたい。

1 教育・子育て支援給付金事業

- 学校給食の無償化をしている自治体は、全国的に3割程度だと言われている。他市に先駆けて取り組んでいることを評価したい。子育て世帯の経済的負担が軽減されることで、子育てしやすい環境が整うと考える。地域住民の意向を反映した、適切かつ有効な事業となっている。給食費の全児童生徒無償化は、学校における集金事務や滞納対応等の業務を軽減・解消することから、学校現場の負担軽減、働き方改革にも資するを考える。
- 給食費の支援により、家庭の負担が減り安心して子供を、学校に送ることができているところが評価できる。
- 物価高、特に食材価格の高騰する今日、子育て世代のニーズと一致し満足度の高い事業である。今後の継続を望むアンケート結果も94.57%とほぼ全員に近い数値であり、ぜひ継続をしていただきたい。事業目的である“選ばれるまちづくり”の推進に一役買っており事業の目的を達成している。また、学校等においてもこれまで大きな労力を要していた給食費の未納対応等から解放されるメリットがある。

2 旭中学校区統合小学校整備事業

- 令和8年4月開校に向けて、ハード・ソフト両面とも計画通り、順調に事業が進められている。過去3校の統合の積み上げの成果であると評価したい。新設小学校は、中学校に隣接し、幼稚園も近隣にあるという恵まれた立地環境にあり、各学校段階等間の接続の円滑化が図れる、義務教育9年間を見通した教育が行われることによる教育成果が期待できる。開校1年目特有の学校運営の諸問題も予想される。良いスタートが切れるよう支援体制を整えておく必要がある。
- 既に統合している3校を参考にし、改善点もあるでしょうから、その面に対してもしっかりと対応して事業を推進してもらいたい。交流事業によって、新学校になってもスムーズに学校生活が送れると思うので評価できる。
- 市内最後の統合小学校としてハード・ソフト両面ともに事業が順調に進められている。手作りのPRビデオはすばらしい出来栄えで、新校舎に対する子供たちの期待も膨らむことと思う。また、小集団から大きな集団となる子供たちの戸惑いに対する対策も工夫されていて保護者も安心できると思う。「統合してよかった」とみんなが感じられるよう、統合前後には情報発信を続けてほししい。

3 英語指導事業

- ALTを配置し外国語活動・外国語の授業を支援しているだけでなく、ALTが幼稚園や小学校低学年生徒との交流にもかかわっていることがよい。発達段階に応じ、系統的に英語に触れることで英語好きの児童生徒を育てている。事業の目的は概ね達成できたと考える。グローバル社会を生きる児童生徒にとって国際的なコミュニケーション能力は必要不可欠であり、本事業の意義は大きいと考える。
- グローバルな社会に対応できる子供を育ててほしい。オールイングリッシュに馴染めない子供もいると思うのでその見極めもしてほしい。
- 今後グローバルな社会で生きていく子供たちがネイティブALTの英語にふんだんに触れることができる意義深い事業である。今後、「英語を学び続けたい。」「外国人と英語で話してみたい。」という児童生徒がさらに増えるよう教師とALTの連携に期待したい。幼稚園児とALTの交流は、幼児が国際感覚を養う最初の出会いとして、子供たちの目の輝きがとても印象深く、大きな役割を果たしている。

4 のびのび児童生徒推進事業

- 本市が児童生徒の一人ひとりの状況に応じた、きめ細やかな教育を重視している姿勢が本事業からうかがえる。厳しい財政状況の中で予算を増額し、SC派遣及び学力向上支援非常勤講師の配置を適切に行っている。SC相談については、370件の相談のうち、336件で改善（改善割合91%）がみられたという調査結果は、特筆すべき成果である。事業の目的も達成していると言える。
- 様々な悩みを持った子供が増えている中、元の学校生活に戻られるように指導している状況を評価する。
- 学力向上支援非常勤講師の配置は、本事業の目的「きめ細やかな教育の提供」を達成するために有効な取り組みで、授業の中で取り残されることなく個に応じた学習支援を受けることができたと思う。また、生き方や考え方が多様化し、それを尊重していく社会環境の中で、集団生活に不適応を起こす児童生徒に学びの場を提供している「すずらんルーム」の役割は大きい。夢や希望を持って生きていく鉢田の子を育てるために、本事業の更なる充実を期待したい。

5 特別支援教育支援事業

- 教育上特別な支援を必要とする児童生徒に対して、特別支援教育支援員（以下、「支援員」という）を配置し、一人ひとりに応じた適切な教育を支援している本事業の意義は大きい。本事業の一環として支援員を対象とした研修を行ったり、指導主事等による個別相談も行ったりしている。支援員の人的配置に加え、支援員の資質向上やサポートにも取り組んでいることは大いに評価できる。この事業は、教育上特別な支援を要する児童生徒だけでなく、他の児童生徒の教育にも資するなど、全体への波及効果の大きい事業である。この事業が拡充していくことを望む。
- 支援員が少ない中、子供に対して真摯に向い合い教育していることを評価。
- 特別支援教育支援員を配置する本事業は児童生徒本人・保護者・学級全体にとって非常に必要度の高い事業である。支援員の配置要望が増加傾向であると記載があるが、合理的配慮をすることで学級全体の安心安全が図られるので、今後も極力学校の要望に応えていただけることを願う。また、支援員の支援力向上の手立てが行われ、事業の効果を高めている。適切な支援を学校全体で行い、どの子も全て「授業を受ける機会」を確保されたい。

6 家庭教育支援事業

- 家庭の教育力が低下している中で、本事業の果たす役割は重要である。各学校で実施される家庭教育学級や就学時健診時など、多くの参加者が見込める場・機会をとらえて研修会を行うなどその持ち方に工夫がみられる。講師を招いた講演会では、子供を元気づける関わり方について学ぶなど、実践的で役に立つ研修内容を企画している。訪問型家庭教育支援事業による個別サポートも充実している。本事業は家庭教育力の向上に貢献しており、目的を達成していると言える。
- 家庭の教育力の低下が指摘されている中、子供の発達段階に応じた学習機会を提供できている状況を評価する。
- 幼・小・中学校単位で、保護者主体で年間を通して開催される家庭教育学級は、家庭の教育力を高めるために有効な事業であると感じている。保護者が話し合い、自分たちで作り上げる教室は、保護者同士のつながりを図れる機会でもある。学童期子育て講座は、就学時健診のすきま時間を利用していく効率的である。小学校区が広くなり、複数の幼稚園や保育園から入学していく保護者同士を結びつける講座内容は、とても有効である。

7 二十歳の集い事業

- 20歳を迎えた成人者に対し、祝福と激励を送り、社会人としての責任ある行動の自覚を促すという目的で行う本事業の意義は深い。式典が混乱もなく厳粛かつ和やかに行われたとのことが、社会ルールやマナーを守る自覚ある若者が育っている証である。頼もしい。実行委員を中心とした企画運営も高く評価したい。
- 実行委員の運営のもと、来賓、家族等多くの出席してもらい、盛大に開催できたことは素晴らしい。
- 人生の節目の式典を当事者と次年度の当事者が創り上げることで、成人としての自覚が強まる。事務局が黒子に徹し、実行委員が表舞台で活躍することで、責任感や地元への愛着も育っていくものと思われる。事務局の苦労も多いと推察するが、新成人者にとって一方的に与えられる式典ではないところが意義深い。

8 花いっぱい運動事業

- 本事業は地域の環境美化、シニア世代のやりがいの創出、地域住民の交流促進、あいさつ運動等と繋がっており、地域の活性化に貢献している。参加団体の活動成果を展

示したり、優れた取組を表彰したりする担当課の取組が花いっぱい運動を活性化させたと考える。担当課及び関係者の工夫・努力に敬意を表したい。

- 地域コミュニティ維持ができている活動なので続けてほしい。
- 地域コミュニティの再生・活性化にとても有効な事業であると考える。花壇作りから地域のふれあいに広がり連携を深める事例があるので、参加する地域が増えてほしいと願う。家の中に籠もらないで花壇を中心に地域の人たちが集まれたら、心身の健康づくりに貢献しコミュニティが広がっていく。そこに地域の児童生徒が加わったらとてもすてきな輪ができる。多くの人に、一粒のタネから立派な花が咲く感動を味わってもらいたい。この事業はそんな可能性を秘めていると思う。

9 放課後子供教室推進事業

- 放課後及び週末に、学校とは異なる魅力のある学びが地域で行われている。豊かな教育を子供たちに提供していると言える。講座の中には、参加者から非常に高い評価を得ているものもある。事業の「質」的な面の向上がみられる。
- 定期的に参加している児童がいることは魅力的な事業なので、続けてほしい。
- 放課後や週末に学校以外に安全安心な学びの場があることは、児童にも保護者にもありがたい事業である。この教室に参加することで、学校生活以外の学びに出会える機会があり、また異学年や他の小学校の児童との交流も期待できる。すばらしい事業であるにもかかわらず、参加人数が少ないので非常に残念である。事業目的や内容の魅力を広く広報し、手立てを工夫して多くの児童が集まれる事業になって欲しい。

10 生涯学習館管理運営事業

- 生涯学習館において、鉢田市に関する歴史史料や石器等の文化財を収集展示するなど歴史・資料館的な役割も果たしている。小学校の校外学習の場として活用されている。生涯学習館は、市民の生涯にわたる学び場、鉢田市の魅力の对外発信の場となっており、本事業は高く評価できる。
- 郷土の歴史・文化の展示や企画展の開催など郷土歴史館としての事業が充実していて評価できる。市内の子供達の校外学習の場として提供されていることも意義のある存在である。今後、生涯にわたる学習活動の拠点施設としての企画運営に期待したい。

11 文化財保護・啓発事業

- 国・県・市指定文化財の恒久的な保存と、未来へ継承する保護啓発活動を適切に行っている。今後は活用の面にも力を入れていくことを期待したい。
- 郷土の貴重な教育資料なので、継続して補助金の確保をお願いします。
- 郷土の宝物である文化財を、今の保存状態を保護し、未来へ継承していくという意義深い事業であり、妥当性は高い。今後も事業の継続が必要である。また、本市の文化財を広く知らしめることは郷土愛を培うことにつながるので、もっと市民の目に触れるPRも必要ではないかと思う。

12 部活動地域移行実証事業

- 部活動の地域移行を地域の実態を踏まえて、段階的に行っていることがよい。進捗状況として、部活動の地域移行がスムーズに進んでいること、新たな受け皿としての新クラブを作るなど、多様な受け皿を用意するという観点からも成果を収めており、評価できる。他の地域の実例を参考に、本事業の一層の拡充を期待したい。
- 部活動を地域移行するにあたって、外部指導者の選抜はとても大事で、子供の将来にも関わるので、しっかりとした指導者を選択してほしい。
- 少子化のため、やりたい部活が学校にない、部活指導時間の教員の負担が大きい等の背景があり地域移行が進められているが、鉢田市の実態に合わせて生徒も保護者も教員も「地域移行をしてよかった」と思える進め方をお願いしたい。学校の部活になかった競技に出会ったり、他の中学校の生徒と一緒に活動したり、地域移行することで得られた成果がたくさんみられる。メリットとなる情報を家庭・学校が共有し、生徒がスポーツをする機会が減ったり、体力が低下したりすることのないことを願っている。

13 スポーツクライミング推進事業

- 「スポーツクライミングの先進地」として鉢田市が広く認知されるまでになっている。本事業の取組を高く評価する。小学校段階で興味を持って取り組んでいる子供が中学生になっても続けられる受け皿（クラブ）をつくる必要がある。
- 鉢田市をアピールするのに素晴らしい事業なので、PRを続けてほしい。
- 本市の特色ある施設であるスポーツクライミングセンターを有効に活用している。各種大会や講習会を開催することで拠点としての役割を果たし「スポーツクライミン

グといえば鉢田」と認識が高まり、市の魅力発信につながった。本市の小学生が一度はこの施設でクライミング体験を経験することは、将来の競技人口を広げる可能性を秘めており価値ある事業だと思う。

14 スポーツ推進事業

- 各種スポーツの大会を地元で開催することで、市民のスポーツ全般への関心が高まり、体力向上、健康の保持増進が図られていると考える。事業の目的を達成している。予算確保が難しくなっている現状を考慮すると、事業効果を検証し、スポーツイベントの選択と集中を図ることも検討する余地があるのではないか。
- 多数の競技種目の大会が開催できているのは素晴らしい。今後も続けてほしい。
- 事業目的達成のために多くの教室や大会を開催しており、様々な団体の協力を得て行うことで、スポーツを通した市民の交流が広がっていると感じる。また中学生の各種大会は、市外から多くの中学校の参加があり青少年の健全育成に貢献している。また、スポーツ協会やスポーツ少年団への支援は、スポーツ団体の運営継続に寄与している。今後も、市民の心身の健康づくりにスポーツ振興は欠かせないので、生涯を通してスポーツを楽しめる機会の提供を続けていただきたい。

15 体育施設管理事業

- 限られた予算の中で、やりくりしながら修繕・改修に努めており、評価できる。「公共施設等総合管理計画及び個別施設計画」に従って、施設の維持・改善・廃止等を適切に進める必要がある。
- 市民が安心してスポーツ競技に専念できるよう、施設の維持管理を行ってほしい。
- 市民にとって、スポーツ振興の拠点として体育施設の役割は大きい。安全で清潔な場を提供することで安心して利用でき、稼働率も高くなっていくと思う。限られた予算の中で老朽化した多くの施設を管理することは大変だと思うが、計画的に継続していただきたい。

16 公民館維持管理事業

- 予算状況が厳しい折、安心・安全を最優先に、維持管理に取り組んでいることは、やむを得ないと考える。長期的な将来像を見据え、市民の理解を得ながら公民館施設の複合化・集約化を進める必要がある。

- 市民の大切な教育活動の場所なので、安全で快適に利用できるように維持管理に努めてほしい。
- 鉢田市の文化振興の拠点としての公民館を多くの市民に利用してもらいたい。そのためには、施設設備が老朽化していても安全で清潔な場として環境を整える必要がある。予算の制限もあり担当課としての苦労があると思うが、利用者目線での維持管理をお願いしたい。

17 公民館運営事業

- 本事業を通して市民一人ひとりに生涯にわたって学ぶ機会を提供し、市民の文化振興に貢献している。成人教育及び青少年教育に係る講座参加者の満足度は97%を超えており、大きな成果を収めている。運営に関わる関係者の企画運営の工夫・努力に敬意を表したい。
- 市民の学習意欲向上できるように推進してほしい。
- 公民館講座は種類が様々あり人気が高い。申し込み受付日で定員になってしまうほど大人気の講座もある。報告にあるように参加者満足度が97%以上で非常に高い。受講生にアンケートをとり、要望に応じようとする姿勢が人気の秘密かもしれない。市民の学ぶ意欲に応えるべく今後も事業を続けていただきたい。講座のユーチューブ配信も効果があったと感じる。

18 芸術文化創造事業

- 本事業を通して市民が多様な文化・芸術に触れる機会を提供し、市民が心豊かな生活を送れるようにしている。事業に対する市民の満足度も高く、芸術文化活動の振興を図るという事業の目的を十分達成していると言える。
- 幅広い年齢の人達に文化芸術に触れてもらえるよう、広報活動に積極的に推進してほしい。
- 芸術文化に触れることのできる本事業は、市民の質の高い本物を観たい聴きたいという要望に応えている。たとえ有料公演でも、日常生活をより豊かにするために、身近な場所で触れられることを楽しんでいると思う。また、市民文化活動団体への支援も鉢田市の芸術文化意識の向上に大いに役立っている。

19 図書館維持管理事業

- 定期的な保守点検、施設の修繕、備品更新により、利用者に安全で快適な環境を提供している。事業の目的を概ね達成している。
- 利用者が快適に過ごせる環境を整備してくれていることは評価したい。
- 住民の生活の質を向上させる公共施設を安心して利用できるよう提供することは住民サービスの大きな柱なので、必要不可欠な事業である。

20 図書館運営事業

- 市民のニーズを的確に把握し、様々な工夫を凝らした取組を行っている。利用者数も増加しており、事業の成果が表れている。電子情報を利用した環境整備も進めてほしい。
- 「赤ちゃんタイム」「図書館1年生」など小さな時から図書館に親しむ工夫が見られる。また、市広報紙の紙面からも図書館の魅力を感じる。これらの発信が利用者増加につながっていると思う。引き続き、知識や情報の拠点である図書館が市民に寄り添った気軽に利用しやすい図書館として運営されることを望む。

21 図書館資料収集事業

- 利用者の貸出状況やリクエストを踏まえて、図書等を購入し、蔵書の充実を図っている。市民のニーズに応える資料収集と情報提供しており、評価できる。
- 地域資料の収集・整備は、地域の図書館として重要な取り組みと考えるので継続して欲しい。また、紙媒体に加え、電子書籍の提供や図書館でのインターネット環境の整備など、時代のニーズに合わせた資料収集も必要になってくると思う。

22 ブックスタート事業

- 乳児期に親子で絵本に親しむ体験の場を提供していることは、豊かな読書週間の育成に役立つと考える。本事業の中で図書館事業を案内し、図書館の利活用にもつないでいる点も評価したい。児童閲覧室も小さなお子さんと保護者の方が安心して読書を楽しめるよう配慮されている。本事業は地域につながりのない、子育てに不安を抱いている保護者の安心ネットワークづくりにもなっていると考える。

- 赤ちゃんの時から本に親しむ、読み聞かせで親子のふれあいを促す、親が読み聞かせの楽しさに気づくなど、たくさんの波及効果があり、これからもずっと続けて欲しいすばらしい事業であると考える。

23 学校配本事業

- 市立図書館と学校図書館が連携することによって、小中学校の読書環境を充実させている。
- 学校と連携して読書環境が充実しているところを評価する。
- 市立図書館と学校図書館の連携は児童生徒の読書意欲向上に大きく貢献している。学校の中に市立図書館コーナーを設ける取り組みは、児童生徒の市立図書館利用促進につながっている。今後、更なる連携を望みたい。

24 鉢田学校給食センター運営管理事業（地方創生臨時交付金事業）

- 物価高騰にもかかわらず以前と変わらない給食の質と量を確保できたことは関係者の工夫・努力の成果である。今後とも、適切な施設・設備の保守管理及び衛生管理を徹底し、安全・安心な給食の提供に取り組んでいただきたい。
- 給食費を増額することなく提供している努力を評価。マニュアルにそって、安心で安全な給食を提供し続けてほしい。
- 安全な食事の提供は基本中の基本であり、その上に教育の場としての学校給食が成り立っている。そのために日々細心の注意を払って作業をしている現場に感謝したい。アレルギー対応・食材の高騰など課題はたくさんあるが、食育の場としての学校給食の役割はとても大きいので、鉢田の子ども達の健康のために、引き続き安全・安心でおいしい給食を提供していただきたい。